

今年度は香川県で
開催されました

国立病院総合医学会で ベストポスター賞 を受賞しました!



2017年11月10日～11日に開催された「第71回 国立病院総合医学会」にて、当院看護師の発表した演題2つがベストポスター賞を受賞しましたので、ご紹介します。

心不全患者とその家族への心不全手帳を 用いたセルフモニタリングの効果

5階東病棟 看護師 向井 晴香 / 半田 奈菜 / 大出 夏美 / 與三本 侑輝 / 星野 敦子 / 川邊 千鳥 / 吉武 亮平 / 藤野 和子

5階東病棟では、心不全の再発により入退院を繰り返す患者さんが多くおられます。その原因は主にセルフモニタリング行動が取れていないことにあり、そこに注目しました。患者さん自身が心不全症状の把握ができるように「心不全手帳」を作成し、入院中から心不全手帳、薬剤、栄養、リハビリに関する指導を行い、その結果と結論・今後の課題を発表しました。

セルフモニタリングとは“自分の思考や活動を自分で観察すること”で、認知行動療法で用いられることのある認知的技法です。「心不全手帳」を用いて患者さん自身やご家族が日々の症状や身体感覚を測定・記録し、体調変化を観察して認識することにより、心不全の増悪の兆候を早期発見し、早期受診につながります。



毎日自分の身体の様子をチェックし、
記入していきます。



心臓血管外科患者の安静を守るための支援の検討 ーリハビリプログラムノートを作成してー

救命救急センター 看護師 満田 絵梨 / 木村 美咲 / 小松屋 真理 / 吉岡 真唯 / 山本 恵子 / 二見 容子

近年、心臓血管外科患者は増加傾向にあります。心臓血管外科患者は急激に病状が進行するおそれがあるため、基本の治療は降圧および安静が主体になります。急性期治療と並行して行われる心臓リハビリテーションを患者さん自身が指示された安静度(病状に応じて守るべき安静の度合)を守りながら進めていく必要があります。

しかし、患者さんは突然の発症後に入院し、日常生活動作を強制的に制限され、安静を強いられた状態となるため、不安を抱えてしまいます。そこで、患者さんが疾患及び治療・安静度に対する理解を深めるための手段として、安静度を分かりやすく写真で表記し、患者さん自身が血圧値や体調を記入できるリハビリプログラムノートを作成しました。

患者さん自身が看護師と共に確認しながらリハビリプログラムノートに記入する事で、積極的に治療に参加でき、安静への意識が高まり、心臓リハビリテーションを進めていくことができたという結果や考察、今後の課題などを発表しました。



写真で分かりやすく表記された
安静度・日々の血圧記入欄

患者さんと看護師共に確認しながら記入します。写真はシールになっているので、安静度が上がれば、その安静度を表示した写真のシールを看護師と一緒に貼る事で、現在の自分の安静度について意識と理解がしやすくなります。

発表中の様子

